



令和5年5月1日
令和5年度学校だより NO.4②
加古川市立平荘小学校

地域の方を招いてお話を伺いました

今年度末で、平荘小学校は閉校となります。今の6年生が、創立131年の歴史ある平荘小学校の最後の6年生となります。

平荘っ子を代表して、地域の方の思いを伺い、地域の皆様と共にこの一年を過ごしていきたいと思ひます。



『新6年生に送るエール』

4月28日(金)に、山本勝 元加古川市教育長をお招きして、6年生にお話をいただきました。『平荘メモリーズ』(私の平荘小学校時代の思い出)と題して、校舎、授業、二宮金次郎の銅像、交換学習会、給食、運動会、遠足(社会見学)、修学旅行、平荘行進曲等、当時のお話をしてくださいました。



今から70年前の平荘小学校は、西の運動場と東の運動場がありました。



- 交換学習生として、加古川小学校と交流をしていました。
- 給食は、パン・脱脂粉乳・スパゲティみたいなものが出たのを覚えています。
- 運動会は、春と秋にありました。春は小学校だけで、秋は町民運動会でした。綱引きは、よく東の方に来たチームが勝っていました。西側の地面が高くて東側の地面が低かったからです。

- 小学校2年生の時に、日岡山に遠足に行きました。現在の現在の池尻橋の近くから渡し舟にのって向こう岸に渡りました。当時は、池尻橋はありませんでした。
- 修学旅行は、伊勢(伊勢神宮)・奈良(興福寺)に行きました。
- 運動会の時に、『平荘行進曲』で行進していました。



●二宮金次郎が持っている本は、中国の古典の『大学』という本で、『一家仁なれば、一國仁に興り、一家讓なれば、一國讓に興り、・・・』と書かれています。これは、「ひとりが善い行いをすればみんなに広がる。ひとりが相手のことを大切に思えば、みんなに広がる。そして、ひとりが自分のことだけ考えると、争いがおこる。」という意味です。

【平荘小学校が閉校になることについて】
あなたたちが平荘小学校の最後の卒業生になります。楽しい思い出をたくさん作ってください。そして、年がいった時に、平荘小学校のことを語り継いでほしい。



【新6年生に期待すること】
大峰千日回峰行大行満大阿闍梨の塩沼良潤師が、「人間として大事なことは、何ですか。」と尋ねられた時に、それは、『感謝、反省、思いやり』ですと言われました。みなさん、この言葉を覚えておいてください。

【人として大切なことは・・・】
『論語』の「・・・其れ恕か。己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ。」を覚えておいてください。

これは、「生きていく上で一番大切なことを一つのことばで言うとしたら、それは『思いやりの心』です。自分が人からされたら、いやだな、と思うことは、人にはしてはいけません。いつも相手を思う、いたわりの心をもてたらいいですね。」という意味です。



子どもたちは、山本 元教育長の後について、論語を音読しました。最後には、各自で覚えました。



子どもたちは、年度当初に、地域の方の思いに触れることができ、貴重な体験ができました。
地域の方の閉校に対する思いや、子どもたちに期待されていることを直接お聞きすることができたことで、子どもたちのこれからの生活にぜひ生かしてくれることと期待しています。